

県連ニュース

原水爆禁止世界大会長崎大会に参加しました

発行者：木原 望
TEL：096-387-2826
FAX：096-381-5442

今回、原水爆禁止世界大会に参加させていただき、たくさんの学びを得ることが出来ました。医療人として働きはじめ以前より人の死を身近に感じる事が多くなり、子どもたちの未来を奪った原爆の残酷さ、親の子どもを思う気持ちなどを考え、その悲しさや絶望感を痛切に感じました。市民社会がこれからのようにして政府へアプローチすればよいのか、現在の政府や世界の原爆に対する考えや学ぶことが出来ました。特に印象に残っている言葉は、原爆を歴史上の出来事として教えるのではなく、倫理の中で教える方がいい。という言葉です。私もこれほど大切なことのように思っています。原爆は今現在の問題であり、過去のことでなく、倫理道德の中で自分自身の問題として考えることで初めて原爆がどんなに残酷で悲惨なこの世界にあるかはならないものかを感じる事ができると思います。谷口稜嘩さんの

人もいなくなった時に、どんな形になっていくのか、それが一番怖い」という言葉を知り、本当に今からとても重要な時期であり、二度とあってはならない原爆の悲惨さを伝えていかなければならないと思いました。今回の大会で、実際の被爆者の声や各国の政府代表のお話を聞くことができてとても貴重な経験をさせていただきました。くわみず病院 久保美鈴



原水爆禁止世界大会広島大会に参加しました

今回、原水爆禁止世界大会へ初めて参加しました。日本全国及び世界各国から、核兵器のない世界を実現するために、それぞれの想いを込めて発表がなされました。想像していたよりも多くの参加があり、圧倒される雰囲気を感じました。話のなかで、現在の日本の安倍政権の取り組みは、唯一の被爆国とは思えない方向でなされており、被爆された人達に向き合っていないのではないかと感じました。

分科会にて被爆体験の継承・実相普及と援護・連帯活動へ参加しました。主に被爆体験者の話や二世の方からの話で、原爆投下の被害や、当時の状況を熱心に語り、「きのこ雲」や「黒い雨」といった独特な言葉も用いられ、印象に残ることが多々ありました。特に強く印象に残ったのは、ある女性被爆者の話で、仲の良い親族も被爆し、その場で亡くなった話を聞き、原爆は極めて非人道的な兵器であるということを実感しました。原爆投下から73年が経ち、当時幼かった被爆も高齢化しており、活動も徐々に少なくなっています。後世に同じような体験を二度としないように、活動を継続していくことが重要であると感じました。

最終日に、とある高校の代表者が、核兵器廃絶を世界へ発信することは大切ではあるが、それ以前に、まずは日本国民が、安倍政権に異を唱え、世界唯一の被爆国であるということを知覚し、この国の人々が意識を変えていく必要があると力強く訴えており、核依存の考え方もあるが、偽りの平和であり、核兵器自体を無くさない限り、本当の意味での平和ではないと思いました。 八代中央クリニック 石坂 悟

